

第 8 回 群杭挙動の実証的研究委員会議事録（案）

日 時：2010 年 11 月 30 日 15:00～17:30

場 所：東京大学 工学部一号館 2 階セミナー室 B

出席者：東畑委員長，川邊委員，佐藤委員，高橋委員，千明委員，沼田委員，寺倉幹事，
金田委員，木村委員，松木委員，吉富委員，斉藤委員，本間委員，後藤幹事（記録）

欠席者：伊藤委員，関委員，角田委員，中澤委員，平出委員，松島委員，吉川委員，山田
委員，小林（恒一）委員，田地委員，松本委員，小林（俊一）委員

配付資料：

8-1 前回議事録

8-2 群杭模型の載荷実験（パワーポイント，後配布）

議事内容：

1. 新任委員の紹介

新任の委員としてジャパンパイルの本間委員が紹介された。

2. 模型杭の載荷実験見学

11 号館地下 2 階の実験場に移動し，模型杭の載荷試験実施状況を見学した。実施されて
いた試験は CASE3（杭間隔 5D，側壁寄りで実施して杭押し込み時の側圧を計測する）で
ある。

3. 前回議事録等確認

資料 8-1 前回議事録の記載内容の紹介があり，修正なく承認された。

4. 模型杭の載荷実験状況報告と討議

資料 8-2 を用いて後藤幹事から模型杭の載荷試験状況について説明があった。それに対
する討議内容は以下の通りである。

- タクタイルセンサーと他のデータとの同時性を取るため載荷を停止して測定して
いるがクリープなどの影響は考慮する必要があるのか。
- 地盤を突き固めで造成しているが，密度管理はできるのか。
- 杭の軸力成分に比較して摩擦力成分の配分が実際の杭と違うのか。
- 単杭で載荷したときの他の杭への影響についてはどんな動きをイメージできるの
か。
- 色砂と杭の相対位置から見て杭間の中間部の砂は動いたのか動かなかったのか。
- 土は下方向へのみ動くのか。
- 群杭載荷の時のタクタイルセンサーの反応で圧力の高い領域は円状ではなく帯状
になっているように見える。
- 群杭載荷時のタクタイルセンサーの反応が一様でないことに，杭の載荷している順

序の影響（圧がこもっていく）は考えられないか。

- CASE 毎に地盤を作成しているので、CASE を超えて試験結果を比較するときは地盤の相違の可能性を考慮する必要がある。

5. その他

- 次回委員会は 2011 年 1 月 27 日（木）15 時より東京大学工学部 1 号館 4 階セミナー室 A で行う。
- 議事予定は①群杭試験の分析結果報告，②話題提供（金田委員：パイルドラフト基礎の数値計算と実験の事前解析（群杭）），③その他。
- 他にも話題提供して下さる委員はご連絡下さい。